

「夏休み明けの今、改めて大切にしたいこと」

夏休み期間、子どもたちはいろいろなことを経験し、ひとまわり成長しているのではないのでしょうか。一方で、夏休み気分が抜けなかったり、学校の生活リズムに戻すことが難しかったりする子どもたちも多いことでしょう。2学期をスタートさせた目の前の子どもたちは、どんな様子ですか。

こんなことはありませんか？「できていたことが、できない！」

1学期には朝の会に参加できていたのに、立ち歩くAさん。先生に着席を促され反抗的な態度に・・・



〈喪失感や不安さ〉

夏休みが終わってしまったという喪失感や2学期という新たな場面が始まることへの不安さなど心理的な影響による行動かもしれません。

〈こだわりや切り替えの難しさ〉

夏休み中の生活ルーティンにこだわってしまい、学校生活の流れに沿うのが難しいのかもしれない。

〈忘れやすさ〉

1学期の生活ルーティンを覚えても、夏休みをはさんだことで、忘れていくかもしれません。他にも様々な要因が考えられるでしょう。改めて**子どもの様子を観察し、理解するところから始めたい**ですね。

周囲の大人は、子どもの成長を願うからこそ「何かを達成できたら次の段階へ」と目標を設定することでしょう。しかし、上記の例のように、子どもにはいろいろな背景があります。私たち大人もまた、「今日は、いつもみたいにできなかったな」という場面があることでしょう。「**にんげんだもの(相田みつを)**」にあるように、**あたたかい目で相手を見る**だけで改善されることもあるのではないのでしょうか。

また、こうした子どもの気になる行動が継続して続くような場合には、その背景・要因を探るために周囲に相談し、チームで考えてみるとよいでしょう。その際、子どもをよく観察すること、何に困っているか本人に聞くことも大切です。関係者が**一緒に考える**ことで必要な支援策が見えやすくなります。**個別の教育支援計画等**が作成されているお子さんについては、それらを見直すのもよい時期です。今の子どもの実態に合った支援や指導になっているか、見直し、子どものより豊かな生活につなげてほしいと思います。

改めて大切にしたい「**子どもを理解すること**」

